

第 1 回技術委員会（方法書第 1 回審議）での意見等及び事業者の見解

No.	区分	委員氏名	意見要旨	事業者の説明、見解等要旨
1	1.7 事業の内容	富樫	<p>工事において最大でどの程度の掘削が想定されるか、現段階に想定されるもので示していただきたい。</p> <p>【亀山委員長】 準備書前の段階で、今この議論をしている間（方法書審議の間）に、およその考えを示すことはできないか。</p>	<p>ごみ処理施設の具体的な設計については、かなり遅い段階となります。</p> <p>対象事業実施区域においては、地下水位が高いためそれほど掘り込まずに工事を進めたいと考えております。</p> <p>【事後回答】 想定される掘削規模については、施設整備計画等で示してまいります。現時点においては最大で10m程度と考えております。</p>
2	1.7 事業の内容	花里	<p>昨年の大震災以降、地震の発生の仕方が変わってきており、長野県内においても栄村や松本で大きな地震が発生したところである。</p> <p>施設を造る際の耐震設計については、今までの施設の物を踏襲するだけではもしかしたら問題があることもあるので、そのことも検討する必要があるのではないか。</p>	<p>焼却施設については、幸いなことに大震災の際にも地震による被害はほとんどなく、津波によって水をかぶってしまうことによる被害が多かったと聞いており、耐震という意味ではかなりしっかり造られているものと考えております。</p> <p>また、二次災害につながらないよう、地震の発生を感知し、炉が安全に停止するようなシステムを考えております。</p> <p>なお、建物等の耐震基準については、次回の技術委員会でお示しいたします。</p> <p>【事後回答】 B 焼却施設については「建築基準法」等の各建築関係法規を満足するとともに、「官庁施設の総合耐震計画基準及び同解説」に規定される設計・建設を行うとともに、今後の動向や国の指導等を踏まえ、安全性の高い施設としてまいります。</p> <p>また、主要設備の耐震設計については、「火力発電所の耐震設計規程（JEAG3605-2003）」の基準もあることから、これらも参考にしてより安全性の高い施設としてまいります。</p>

No.	区分	委員氏名	意見要旨	事業者の説明、見解等要旨
3	2.2 社会的状況	花里	千曲川の水位が上がることによって過去に発生した洪水の数、その際の水位の高さ及び伊勢宮排水ポンプ場の稼働状況を示していただきたい。	<p>次回の技術委員会でお示しいたします。</p> <p>【事後回答】 伊勢宮排水ポンプ場及び対象事業実施区域周辺における洪水は「千曲市地域防災計画」によると過去20年間、記録されておられません。 このポンプ場は、伊勢宮川都市下水路の改修にあたり、平成5年3月に設置されたもので、千曲川河床から水位が2mを超えた場合に千曲川への流入を止め、ポンプを稼働させます。稼働回数については、詳細なデータがないため確認できませんでした。 なお、千曲川の最高水位は、昭和34年8月に5.25mを杭瀬下観測所で記録しております。</p>
4	2.3 自然的状況	梅崎	<p>地下水の水位は4m程度と低位置に存在するが、これは変動することがあるのか。また、地下水はこの周辺の農地で使われることがあるのか。</p> <p>表面の砂礫が緩いため、地下水位が上がってきた際に液状化が起きる可能性が想定されるため、調べていただきたい。</p>	<p>方法書の水象でお示ししたとおり、対象事業実施区域内及びその周辺部において、地下水位の1年間の変動を確認するとともに、現況の地下水の利用状況を調査いたします。</p> <p>【事後回答】 長野県地震対策基礎調査（H14年3月）によると、対象事業実施区域は液状化の危険度は低いと評価されておりますが、地質について、別途行う候補地内の地質調査において詳細を確認したうえで、評価いたします。</p>
5	2.3 自然的状況	中村(雅)	方法書128ページのメダカについては、メダカ目ではなくダツ目ではないか。	<p>出典資料の記載どおりですが、ご意見を踏まえ、ご指摘の表記を併記いたします。</p>
6	2.3 自然的状況	片谷	方法書152ページに千曲市における苦情発生件数が記載されているが、対象事業実施区域周辺における苦情発生状況があれば有効な情報となるため、準備書段階でよいのでお示しいたきたい。特に「その他」でくくられているものが多いので、その中身についても教えていただきたい。	<p>次回の技術委員会でお示しいたします。</p> <p>【事後回答】 対象事業実施区域を含む屋代地区の苦情件数は、H18年度が4件、H19年度が2件、H20年度が5件、H21年度が6件、H22年度が5件で、その内容は野焼きや騒音等の苦情でございます。 また、その他の中身としては、空地の雑草やアメリカシロヒトリ(樹木害虫)等が主なものでございます。</p>

No.	区分	委員氏名	意見要旨	事業者の説明、見解等要旨
7	3.2.1 大気質	片谷	方法書208ページに「予測地域及び予測地点」とあるが、予測は面的に実施し、濃度分布図いわゆるコンター図のような形でお示しされ、なおかつ最大着地濃度地点についてはデジタルな数値で示すということによいか。	予測地域については、濃度分布図（コンター図）として結果をお示しいたします。 また、予測地点の最大着地濃度地点については、詳細な結果を数値でお示しいたします。
8	3.2.1 大気質	鈴木	現地の上空には送電線が設置されており、上層気象測定に支障をきたす可能性があるが、こういった形で測定を実施するのか。	上層気象については、現況把握のため候補地内での実施が望ましいですが、広く千曲川の河川敷等も含めて検討いたします。
9	3.2.1 大気質	鈴木	方法書205ページに環境大気の調査地点が示されているが、北東、南西側については、国道18号のそばになってしまうので、道路影響により施設の影響を適切に予測できない可能性がある。	道路の影響を大きく受けない場所を調査地点といたします。
10	3.2.5 悪臭	片谷	悪臭の予測において、悪臭発生量はどのように設定するのか。	既存資料や文献をもとに想定される発生量を設定いたします。
11	3.2.5 悪臭	片谷	当施設には、ごみ収集車両洗浄施設は設けられるのか。 悪臭対策については方法書に記載されているところであるが、設備そのものが悪臭発生源になりうるので、設置される可能性があるようなら、予測に加えていただきたい。	ごみ収集車両からの臭気については、洗車設備等の適切な利用により低減を図る計画としております。 【事後回答】 ごみ収集車両洗浄施設の詳細については、整備計画の中で検討し、必要な予測評価を行います。
12	3.2.7 水象	鈴木	地下水について、稼働により揚水する可能性があるという記載や、揚水するという記載があるが、どちらが正しいのか。方法書189ページには可能性があるという記載があり、もしかしたら揚水を行わないこともあるのか。	焼却施設の稼働においては、ごみ1t当たり0.5～2tほどの水が必要となることから、地下水の利用を想定しております。 ご指摘いただいた曖昧な表現については、利用を想定した文章に修正いたします。

No.	区分	委員氏名	意見要旨	事業者の説明、見解等要旨
13	3.2.7 水象	富樫	<p>選定環境要素の表に、地下水及び地盤沈下については取り上げられているが、地形・地質には記載されていない。</p> <p>地下水の揚水に伴う周辺への影響予測においては、この3項目はセットで考える必要があるため、○ないし△にするかはともかくとして、選定からは落とさないでいただきたい。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ検討して、次回の技術委員会でお示いたします。</p> <p>【事後回答】 地形・地質については、別途行う候補地内の地質調査において詳細を確認し、影響を予測評価いたします。</p>
14	3.2.7 水象	富樫	<p>水利用及び地下水の現地調査方法については、調査範囲が記載されていないとどの程度の調査がされるのか分からないため、A焼却施設を参考にしてもう少し具体的に示していただきたい。</p> <p>また地下水利用状況について、周辺井戸の場所、深度、用途、水量等基本的なデータを調査していただきたい。</p>	<p>地下水の利用状況については、現況調査において確認をしております。なお、調査範囲については、次回の技術委員会でお示いたします。</p> <p>【事後回答】 調査範囲については、先に実施したA焼却施設と同様に概ね半径500mといたします。</p>
15	3.2.8 土壌汚染他	小澤	<p>方法書234ページにおいて、土壌汚染の調査に際しては対象事業実施区域及びその周辺における発生源の状況について確認するという記載があり、汚染物について他の発生源があることも確認して調査を行うということと思うが、これは調査後の予測評価に反映させていくのですか。発生源があれば、それを含めた予測が必要ではないか。</p> <p>また、方法書201ページの大気質の部分にも、調査方法のところで対象事業実施区域及びその周辺における発生源の状況について確認する旨の記載があるが、そこも同様の解釈ととらえてよいか。</p>	<p>周辺の状況がどうなっているか把握するという意味で、こういった記載をさせていただきました。</p> <p>【事後回答】 周辺における発生源の状況について確認し、現況をバックグラウンドとして、計画施設からの影響について予測評価いたします。</p>
16	3.2.11 動物	中村(寛)	<p>方法書246ページに記載されている動植物の現地範囲において、千曲川河川敷や篠ノ井塩崎付近に神社があり、地図上には針葉樹が存在している。</p> <p>もし社叢林があるようなら、こちらの神社も調査範囲に加える必要があるのではないか。</p>	<p>確認して、状況に応じ調査範囲を広げることを検討したいと思います。</p> <p>【事後回答】 246ページの篠ノ井塩崎地区の千曲川河川敷に接する神社は、「軻良根古(カネコ)神社」でございます。現地調査により、社叢林は大きな樹林帯ではございませんが、鳥類の飛来が考えられますので、社叢林を調査範囲に含めてまいります。</p>

No.	区分	委員氏名	意見要旨	事業者の説明、見解等要旨
17	3.2.11 動物	中村 (寛)	動物の現地調査において、ベイトトラップは1か所で実施するのか。また水生生物の調査は何か所を予定するのか教えていただきたい。	共に複数個所になるかと思いますが、詳細については今後検討いたします。
18	3.2.11 動物	中村 (雅)	鳥類についてはラインセンサス法、ポイントセンサス法及び任意観察により調査を行うこととされているが、任意観察とはこういったものを示すのか教えていただきたい。 また、昆虫類の任意採集及び両性類・爬虫類の任意確認調査とはどう違うのか。	任意観察とは、ラインセンサス・ポイントセンサス法以外の踏査をした際の確認を対象といたします。 その他については確認をして、次回の技術委員会でお示しいたします。 【事後回答】 調査を大別すると、観察を行う「任意観察」と、採集して確認を行う「任意採集」がございます。 方法書に記載の「任意確認」と「任意確認調査」については、標記を「任意観察」に統一いたします。
19	3.2.14 触れ合い 活動の場	陸	方法書253ページ 触れ合い活動の場の現地調査の調査頻度については年2回とされているが、1回の調査における内容及び期間について、現在の考えがあればお教えいただきたい。	触れ合い活動の場の調査については、河川敷及びサイクリングロード等の利用者が多い、春と秋の行楽シーズンにそれぞれ1回（1日）、実施する予定でございます。 調査内容としては、現地踏査、利用状況調査及び聞き取り調査等を実施いたします。
20	3.2.14 触れ合い 活動の場	陸	日程を選ぶタイミングとして、年間の利用者数が分かるような調査方法や、季節変動を考慮した日程選定、例えば快晴の日や休祝日といった日を選定していただきたい。	いただいたご意見を参考に、調査日を選定いたします。 【事後回答】 調査対象区域でのイベントや行事等の情報も収集し、結果に反映させてまいります。

第 1 回技術委員会（方法書第 1 回審議）での意見等及び事業者の見解

No.	区分	委員氏名	意見要旨	事業者の説明、見解等要旨
1	1.7 事業の内容	富樫	<p>工事において最大でどの程度の掘削が想定されるか、現段階に想定されるもので示していただきたい。</p> <p>【亀山委員長】 準備書前の段階で、今この議論をしている間（方法書審議の間）に、およその考えを示すことはできないか。</p>	<p>ごみ処理施設の具体的な設計については、かなり遅い段階となります。</p> <p>対象事業実施区域においては、地下水位が高いためそれほど掘り込まずに工事を進めたいと考えております。</p> <p>【事後回答】 想定される掘削規模については、施設整備計画等で示してまいります。現時点においては最大で10m程度と考えております。</p>
2	1.7 事業の内容	花里	<p>昨年の大震災以降、地震の発生の仕方が変わってきており、長野県内においても栄村や松本で大きな地震が発生したところである。</p> <p>施設を造る際の耐震設計については、今までの施設の物を踏襲するだけではもしかしたら問題があることもあるので、そのことも検討する必要があるのではないか。</p>	<p>焼却施設については、幸いなことに大震災の際にも地震による被害はほとんどなく、津波によって水をかぶってしまうことによる被害が多かったと聞いており、耐震という意味ではかなりしっかり造られているものと考えております。</p> <p>また、二次災害につながらないように、地震の発生を感知し、炉が安全に停止するようなシステムを考えております。</p> <p>なお、建物等の耐震基準については、次回の技術委員会でお示しいたします。</p> <p>【事後回答】 B 焼却施設については「建築基準法」等の各建築関係法規を満足するとともに、「官庁施設の総合耐震計画基準及び同解説」に規定される設計・建設を行うとともに、今後の動向や国の指導等を踏まえ、安全性の高い施設としてまいります。</p> <p>また、主要設備の耐震設計については、「火力発電所の耐震設計規程（JEAG3605-2003）」の基準もあることから、これらも参考にしてより安全性の高い施設としてまいります。</p>

No.	区分	委員氏名	意見要旨	事業者の説明、見解等要旨
3	2.2 社会的状況	花里	千曲川の水位が上がることによって過去に発生した洪水の数、その際の水位の高さ及び伊勢宮排水ポンプ場の稼働状況を示していただきたい。	<p>次回の技術委員会でお示しいたします。</p> <p>【事後回答】 伊勢宮排水ポンプ場及び対象事業実施区域周辺における洪水は「千曲市地域防災計画」によると過去20年間、記録されておられません。 このポンプ場は、伊勢宮川都市下水路の改修にあたり、平成5年3月に設置されたもので、千曲川河床から水位が2mを超えた場合に千曲川への流入を止め、ポンプを稼働させます。稼働回数については、詳細なデータがないため確認できませんでした。 なお、千曲川の最高水位は、昭和34年8月に5.25mを杭瀬下観測所で記録しております。</p>
4	2.3 自然的状況	梅崎	<p>地下水の水位は4m程度と低位置に存在するが、これは変動することがあるのか。また、地下水はこの周辺の農地で使われることがあるのか。</p> <p>表面の砂礫が緩いため、地下水位が上がってきた際に液状化が起きる可能性が想定されるため、調べていただきたい。</p>	<p>方法書の水象でお示ししたとおり、対象事業実施区域内及びその周辺部において、地下水位の1年間の変動を確認するとともに、現況の地下水の利用状況を調査いたします。</p> <p>【事後回答】 長野県地震対策基礎調査（H14年3月）によると、対象事業実施区域は液状化の危険度は低いと評価されておりますが、地質について、別途行う候補地内の地質調査において詳細を確認したうえで、評価いたします。</p>
5	2.3 自然的状況	中村(雅)	方法書128ページのメダカについては、メダカ目ではなくダツ目ではないか。	<p>出典資料の記載どおりですが、ご意見を踏まえ、ご指摘の表記を併記いたします。</p>
6	2.3 自然的状況	片谷	方法書152ページに千曲市における苦情発生件数が記載されているが、対象事業実施区域周辺における苦情発生状況があれば有効な情報となるため、準備書段階でよいのでお示しいたきたい。特に「その他」でくくられているものが多いので、その中身についても教えていただきたい。	<p>次回の技術委員会でお示しいたします。</p> <p>【事後回答】 対象事業実施区域を含む屋代地区の苦情件数は、H18年度が4件、H19年度が2件、H20年度が5件、H21年度が6件、H22年度が5件で、その内容は野焼きや騒音等の苦情でございます。 また、その他の中身としては、空地の雑草やアメリカシロヒトリ(樹木害虫)等が主なものでございます。</p>

No.	区分	委員氏名	意見要旨	事業者の説明、見解等要旨
7	3.2.1 大気質	片谷	方法書208ページに「予測地域及び予測地点」とあるが、予測は面的に実施し、濃度分布図いわゆるコンター図のような形でお示しされ、なおかつ最大着地濃度地点についてはデジタルな数値で示すということによいか。	予測地域については、濃度分布図（コンター図）として結果をお示しいたします。 また、予測地点の最大着地濃度地点については、詳細な結果を数値でお示しいたします。
8	3.2.1 大気質	鈴木	現地の上空には送電線が設置されており、上層気象測定に支障をきたす可能性があるが、こういった形で測定を実施するののか。	上層気象については、現況把握のため候補地内での実施が望ましいですが、広く千曲川の河川敷等も含めて検討いたします。
9	3.2.1 大気質	鈴木	方法書205ページに環境大気の調査地点が示されているが、北東、南西側については、国道18号のそばになってしまうので、道路影響により施設の影響を適切に予測できない可能性がある。	道路の影響を大きく受けない場所を調査地点といたします。
10	3.2.5 悪臭	片谷	悪臭の予測において、悪臭発生量はどのように設定するののか。	既存資料や文献をもとに想定される発生量を設定いたします。
11	3.2.5 悪臭	片谷	当施設には、ごみ収集車両洗浄施設は設けられるの か。 悪臭対策については方法書に記載されているところであるが、設備そのものが悪臭発生源になりうるので、設置される可能性があるようなら、予測に加えていただきたい。	ごみ収集車両からの臭気については、洗車設備等の適切な利用により低減を図る計画としております。 【事後回答】 ごみ収集車両洗浄施設の詳細については、整備計画の中で検討し、必要な予測評価を行います。
12	3.2.7 水象	鈴木	地下水について、稼働により揚水する可能性があるという記載や、揚水するという記載があるが、どちらが正しいのか。方法書189ページには可能性があるという記載があり、もしかしたら揚水を行わないこともあるの か。	焼却施設の稼働においては、ごみ1 t当たり0.5～2 tほどの水が必要となることから、地下水の利用を想定しております。 ご指摘いただいた曖昧な表現については、利用を想定した文章に修正いたします。

No.	区分	委員氏名	意見要旨	事業者の説明、見解等要旨
13	3.2.7 水象	富樫	<p>選定環境要素の表に、地下水及び地盤沈下については取り上げられているが、地形・地質には記載されていない。</p> <p>地下水の揚水に伴う周辺への影響予測においては、この3項目はセットで考える必要があるため、○ないし△にするかはともかくとして、選定からは落とさないでいただきたい。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ検討して、次回の技術委員会でお示しいたします。</p> <p>【事後回答】 地形・地質については、別途行う候補地内の地質調査において詳細を確認し、影響を予測評価いたします。</p>
14	3.2.7 水象	富樫	<p>水利用及び地下水の現地調査方法については、調査範囲が記載されていないとどの程度の調査がされるのか分からないため、A焼却施設を参考にしてもう少し具体的に示していただきたい。</p> <p>また地下水利用状況について、周辺井戸の場所、深度、用途、水量等基本的なデータを調査していただきたい。</p>	<p>地下水の利用状況については、現況調査において確認をしております。なお、調査範囲については、次回の技術委員会でお示しいたします。</p> <p>【事後回答】 調査範囲については、先に実施したA焼却施設と同様に概ね半径500mといたします。</p>
15	3.2.8 土壌汚染他	小澤	<p>方法書234ページにおいて、土壌汚染の調査に際しては対象事業実施区域及びその周辺における発生源の状況について確認するという記載があり、汚染物について他の発生源があることも確認して調査を行うということと思うが、これは調査後の予測評価に反映させていくのですか。発生源があれば、それを含めた予測が必要ではないか。</p> <p>また、方法書201ページの大気質の部分にも、調査方法のところで対象事業実施区域及びその周辺における発生源の状況について確認する旨の記載があるが、そこも同様の解釈ととらえてよいか。</p>	<p>周辺の状況がどうなっているか把握するという意味で、こういった記載をさせていただきました。</p> <p>【事後回答】 周辺における発生源の状況について確認し、現況をバックグラウンドとして、計画施設からの影響について予測評価いたします。</p>
16	3.2.11 動物	中村(寛)	<p>方法書246ページに記載されている動植物の現地範囲において、千曲川河川敷や篠ノ井塩崎付近に神社があり、地図上には針葉樹が存在している。</p> <p>もし社叢林があるようなら、こちらの神社も調査範囲に加える必要があるのではないか。</p>	<p>確認して、状況に応じ調査範囲を広げることを検討したいと思います。</p> <p>【事後回答】 246ページの篠ノ井塩崎地区の千曲川河川敷に接する神社は、「軻良根古(カヲネ)神社」でございます。現地調査により、社叢林は大きな樹林帯ではございませんが、鳥類の飛来が考えられますので、社叢林を調査範囲に含めてまいります。</p>

No.	区分	委員氏名	意見要旨	事業者の説明、見解等要旨
17	3.2.11 動物	中村 (寛)	動物の現地調査において、ベイトトラップは1か所で実施するのか。また水生生物の調査は何か所を予定するのか教えていただきたい。	共に複数個所になるかと思いますが、詳細については今後検討いたします。
18	3.2.11 動物	中村 (雅)	鳥類についてはラインセンサス法、ポイントセンサス法及び任意観察により調査を行うこととされているが、任意観察とはこういったものを示すのか教えていただきたい。 また、昆虫類の任意採集及び両性類・爬虫類の任意確認調査とはどう違うのか。	任意観察とは、ラインセンサス・ポイントセンサス法以外の踏査をした際の確認を対象といたします。 その他については確認をして、次回の技術委員会でお示しいたします。 【事後回答】 調査を大別すると、観察を行う「任意観察」と、採集して確認を行う「任意採集」がございます。 方法書に記載の「任意確認」と「任意確認調査」については、標記を「任意観察」に統一いたします。
19	3.2.14 触れ合い 活動の場	陸	方法書253ページ 触れ合い活動の場の現地調査の調査頻度については年2回とされているが、1回の調査における内容及び期間について、現在の考えがあればお教えいただきたい。	触れ合い活動の場の調査については、河川敷及びサイクリングロード等の利用者が多い、春と秋の行楽シーズンにそれぞれ1回（1日）、実施する予定でございます。 調査内容としては、現地踏査、利用状況調査及び聞き取り調査等を実施いたします。
20	3.2.14 触れ合い 活動の場	陸	日程を選ぶタイミングとして、年間の利用者数が分かるような調査方法や、季節変動を考慮した日程選定、例えば快晴の日や休祝日といった日を選定していただきたい。	いただいたご意見を参考に、調査日を選定いたします。 【事後回答】 調査対象区域でのイベントや行事等の情報も収集し、結果に反映させてまいります。

第 1 回技術委員会（方法書第 1 回審議）での意見等及び事業者の見解

No.	区分	委員氏名	意見要旨	事業者の説明、見解等要旨
1	1.7 事業の内容	富樫	<p>工事において最大でどの程度の掘削が想定されるか、現段階に想定されるもので示していただきたい。</p> <p>【亀山委員長】 準備書前の段階で、今この議論をしている間（方法書審議の間）に、およその考えを示すことはできないか。</p>	<p>ごみ処理施設の具体的な設計については、かなり遅い段階となります。</p> <p>対象事業実施区域においては、地下水位が高いためそれほど掘り込まずに工事を進めたいと考えております。</p> <p>【事後回答】 想定される掘削規模については、施設整備計画等で示してまいります。現時点においては最大で10m程度と考えております。</p>
2	1.7 事業の内容	花里	<p>昨年の大震災以降、地震の発生の仕方が変わってきており、長野県内においても栄村や松本で大きな地震が発生したところである。</p> <p>施設を造る際の耐震設計については、今までの施設の物を踏襲するだけではもしかしたら問題があることもあるので、そのことも検討する必要があるのではないか。</p>	<p>焼却施設については、幸いなことに大震災の際にも地震による被害はほとんどなく、津波によって水をかぶってしまうことによる被害が多かったと聞いており、耐震という意味ではかなりしっかり造られているものと考えております。</p> <p>また、二次災害につながらないように、地震の発生を感知し、炉が安全に停止するようなシステムを考えております。</p> <p>なお、建物等の耐震基準については、次回の技術委員会でお示しいたします。</p> <p>【事後回答】 B 焼却施設については「建築基準法」等の各建築関係法規を満足するとともに、「官庁施設の総合耐震計画基準及び同解説」に規定される設計・建設を行うとともに、今後の動向や国の指導等を踏まえ、安全性の高い施設としてまいります。</p> <p>また、主要設備の耐震設計については、「火力発電所の耐震設計規程（JEAG3605-2003）」の基準もあることから、これらも参考にしてより安全性の高い施設としてまいります。</p>

No.	区分	委員氏名	意見要旨	事業者の説明、見解等要旨
3	2.2 社会的状況	花里	千曲川の水位が上がることによって過去に発生した洪水の数、その際の水位の高さ及び伊勢宮排水ポンプ場の稼働状況を示していただきたい。	<p>次回の技術委員会でお示しいたします。</p> <p>【事後回答】 伊勢宮排水ポンプ場及び対象事業実施区域周辺における洪水は「千曲市地域防災計画」によると過去20年間、記録されておられません。 このポンプ場は、伊勢宮川都市下水路の改修にあたり、平成5年3月に設置されたもので、千曲川河床から水位が2mを超えた場合に千曲川への流入を止め、ポンプを稼働させます。稼働回数については、詳細なデータがないため確認できませんでした。 なお、千曲川の最高水位は、昭和34年8月に5.25mを杭瀬下観測所で記録しております。</p>
4	2.3 自然的状況	梅崎	<p>地下水の水位は4m程度と低位置に存在するが、これは変動することがあるのか。また、地下水はこの周辺の農地で使われることがあるのか。</p> <p>表面の砂礫が緩いため、地下水位が上がってきた際に液状化が起きる可能性が想定されるため、調べていただきたい。</p>	<p>方法書の水象でお示ししたとおり、対象事業実施区域内及びその周辺部において、地下水位の1年間の変動を確認するとともに、現況の地下水の利用状況を調査いたします。</p> <p>【事後回答】 長野県地震対策基礎調査（H14年3月）によると、対象事業実施区域は液状化の危険度は低いと評価されておりますが、地質について、別途行う候補地内の地質調査において詳細を確認したうえで、評価いたします。</p>
5	2.3 自然的状況	中村(雅)	方法書128ページのメダカについては、メダカ目ではなくダツ目ではないか。	<p>出典資料の記載どおりですが、ご意見を踏まえ、ご指摘の表記を併記いたします。</p>
6	2.3 自然的状況	片谷	方法書152ページに千曲市における苦情発生件数が記載されているが、対象事業実施区域周辺における苦情発生状況があれば有効な情報となるため、準備書段階でよいのでお示しいたきたい。特に「その他」でくくられているものが多いので、その中身についても教えていただきたい。	<p>次回の技術委員会でお示しいたします。</p> <p>【事後回答】 対象事業実施区域を含む屋代地区の苦情件数は、H18年度が4件、H19年度が2件、H20年度が5件、H21年度が6件、H22年度が5件で、その内容は野焼きや騒音等の苦情でございます。 また、その他の中身としては、空地の雑草やアメリカシロヒトリ(樹木害虫)等が主なものでございます。</p>

No.	区分	委員氏名	意見要旨	事業者の説明、見解等要旨
7	3.2.1 大気質	片谷	方法書208ページに「予測地域及び予測地点」とあるが、予測は面的に実施し、濃度分布図いわゆるコンター図のような形でお示しされ、なおかつ最大着地濃度地点についてはデジタルな数値で示すということによいか。	予測地域については、濃度分布図（コンター図）として結果をお示しいたします。 また、予測地点の最大着地濃度地点については、詳細な結果を数値でお示しいたします。
8	3.2.1 大気質	鈴木	現地の上空には送電線が設置されており、上層気象測定に支障をきたす可能性があるが、こういった形で測定を実施するのか。	上層気象については、現況把握のため候補地内での実施が望ましいですが、広く千曲川の河川敷等も含めて検討いたします。
9	3.2.1 大気質	鈴木	方法書205ページに環境大気の調査地点が示されているが、北東、南西側については、国道18号のそばになってしまうので、道路影響により施設の影響を適切に予測できない可能性がある。	道路の影響を大きく受けない場所を調査地点といたします。
10	3.2.5 悪臭	片谷	悪臭の予測において、悪臭発生量はどのように設定するのか。	既存資料や文献をもとに想定される発生量を設定いたします。
11	3.2.5 悪臭	片谷	当施設には、ごみ収集車両洗浄施設は設けられるのか。 悪臭対策については方法書に記載されているところであるが、設備そのものが悪臭発生源になりうるので、設置される可能性があるようなら、予測に加えていただきたい。	ごみ収集車両からの臭気については、洗車設備等の適切な利用により低減を図る計画としております。 【事後回答】 ごみ収集車両洗浄施設の詳細については、整備計画の中で検討し、必要な予測評価を行います。
12	3.2.7 水象	鈴木	地下水について、稼働により揚水する可能性があるという記載や、揚水するという記載があるが、どちらが正しいのか。方法書189ページには可能性があるという記載があり、もしかしたら揚水を行わないこともあるのか。	焼却施設の稼働においては、ごみ1t当たり0.5～2tほどの水が必要となることから、地下水の利用を想定しております。 ご指摘いただいた曖昧な表現については、利用を想定した文章に修正いたします。

No.	区分	委員氏名	意見要旨	事業者の説明、見解等要旨
13	3.2.7 水象	富樫	<p>選定環境要素の表に、地下水及び地盤沈下については取り上げられているが、地形・地質には記載されていない。</p> <p>地下水の揚水に伴う周辺への影響予測においては、この3項目はセットで考える必要があるため、○ないし△にするかはともかくとして、選定からは落とさないでいただきたい。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ検討して、次回の技術委員会でお示しいたします。</p> <p>【事後回答】 地形・地質については、別途行う候補地内の地質調査において詳細を確認し、影響を予測評価いたします。</p>
14	3.2.7 水象	富樫	<p>水利用及び地下水の現地調査方法については、調査範囲が記載されていないとどの程度の調査がされるのか分からないため、A焼却施設を参考にしてもう少し具体的に示していただきたい。</p> <p>また地下水利用状況について、周辺井戸の場所、深度、用途、水量等基本的なデータを調査していただきたい。</p>	<p>地下水の利用状況については、現況調査において確認をしております。なお、調査範囲については、次回の技術委員会でお示しいたします。</p> <p>【事後回答】 調査範囲については、先に実施したA焼却施設と同様に概ね半径500mといたします。</p>
15	3.2.8 土壌汚染他	小澤	<p>方法書234ページにおいて、土壌汚染の調査に際しては対象事業実施区域及びその周辺における発生源の状況について確認するという記載があり、汚染物について他の発生源があることも確認して調査を行うということと思うが、これは調査後の予測評価に反映させていくのですか。発生源があれば、それを含めた予測が必要ではないか。</p> <p>また、方法書201ページの大気質の部分にも、調査方法のところで対象事業実施区域及びその周辺における発生源の状況について確認する旨の記載があるが、そこも同様の解釈ととらえてよいか。</p>	<p>周辺の状況がどうなっているか把握するという意味で、こういった記載をさせていただきました。</p> <p>【事後回答】 周辺における発生源の状況について確認し、現況をバックグラウンドとして、計画施設からの影響について予測評価いたします。</p>
16	3.2.11 動物	中村(寛)	<p>方法書246ページに記載されている動植物の現地範囲において、千曲川河川敷や篠ノ井塩崎付近に神社があり、地図上には針葉樹が存在している。</p> <p>もし社叢林があるようなら、こちらの神社も調査範囲に加える必要があるのではないか。</p>	<p>確認して、状況に応じ調査範囲を広げることを検討したいと思います。</p> <p>【事後回答】 246ページの篠ノ井塩崎地区の千曲川河川敷に接する神社は、「軻良根古(カネコ)神社」でございます。現地調査により、社叢林は大きな樹林帯ではございませんが、鳥類の飛来が考えられますので、社叢林を調査範囲に含めてまいります。</p>

No.	区分	委員氏名	意見要旨	事業者の説明、見解等要旨
17	3.2.11 動物	中村 (寛)	動物の現地調査において、ベイトトラップは1か所で実施するのか。また水生生物の調査は何か所を予定するのか教えていただきたい。	共に複数個所になるかと思いますが、詳細については今後検討いたします。
18	3.2.11 動物	中村 (雅)	鳥類についてはラインセンサス法、ポイントセンサス法及び任意観察により調査を行うこととされているが、任意観察とはこういったものを示すのか教えていただきたい。 また、昆虫類の任意採集及び両性類・爬虫類の任意確認調査とはどう違うのか。	任意観察とは、ラインセンサス・ポイントセンサス法以外の踏査をした際の確認を対象といたします。 その他については確認をして、次回の技術委員会でお示しいたします。 【事後回答】 調査を大別すると、観察を行う「任意観察」と、採集して確認を行う「任意採集」がございます。 方法書に記載の「任意確認」と「任意確認調査」については、標記を「任意観察」に統一いたします。
19	3.2.14 触れ合い 活動の場	陸	方法書253ページ 触れ合い活動の場の現地調査の調査頻度については年2回とされているが、1回の調査における内容及び期間について、現在の考えがあればお教えいただきたい。	触れ合い活動の場の調査については、河川敷及びサイクリングロード等の利用者が多い、春と秋の行楽シーズンにそれぞれ1回（1日）、実施する予定でございます。 調査内容としては、現地踏査、利用状況調査及び聞き取り調査等を実施いたします。
20	3.2.14 触れ合い 活動の場	陸	日程を選ぶタイミングとして、年間の利用者数が分かるような調査方法や、季節変動を考慮した日程選定、例えば快晴の日や休祝日といった日を選定していただきたい。	いただいたご意見を参考に、調査日を選定いたします。 【事後回答】 調査対象区域でのイベントや行事等の情報も収集し、結果に反映させてまいります。

第 1 回技術委員会（方法書第 1 回審議）での意見等及び事業者の見解

No.	区分	委員氏名	意見要旨	事業者の説明、見解等要旨
1	1.7 事業の内容	富樫	<p>工事において最大でどの程度の掘削が想定されるか、現段階に想定されるもので示していただきたい。</p> <p>【亀山委員長】 準備書前の段階で、今この議論をしている間（方法書審議の間）に、およその考えを示すことはできないか。</p>	<p>ごみ処理施設の具体的な設計については、かなり遅い段階となります。</p> <p>対象事業実施区域においては、地下水位が高いためそれほど掘り込まずに工事を進めたいと考えております。</p> <p>【事後回答】 想定される掘削規模については、施設整備計画等で示してまいります。現時点においては最大で10m程度と考えております。</p>
2	1.7 事業の内容	花里	<p>昨年の大震災以降、地震の発生の仕方が変わってきており、長野県内においても栄村や松本で大きな地震が発生したところである。</p> <p>施設を造る際の耐震設計については、今までの施設の物を踏襲するだけではもしかしたら問題があることもあるので、そのことも検討する必要があるのではないか。</p>	<p>焼却施設については、幸いなことに大震災の際にも地震による被害はほとんどなく、津波によって水をかぶってしまうことによる被害が多かったと聞いており、耐震という意味ではかなりしっかり造られているものと考えております。</p> <p>また、二次災害につながらないように、地震の発生を感知し、炉が安全に停止するようなシステムを考えております。</p> <p>なお、建物等の耐震基準については、次回の技術委員会でお示しいたします。</p> <p>【事後回答】 B 焼却施設については「建築基準法」等の各建築関係法規を満足するとともに、「官庁施設の総合耐震計画基準及び同解説」に規定される設計・建設を行うとともに、今後の動向や国の指導等を踏まえ、安全性の高い施設としてまいります。</p> <p>また、主要設備の耐震設計については、「火力発電所の耐震設計規程（JEAG3605-2003）」の基準もあることから、これらも参考にしてより安全性の高い施設としてまいります。</p>

No.	区分	委員氏名	意見要旨	事業者の説明、見解等要旨
3	2.2 社会的状況	花里	千曲川の水位が上がることによって過去に発生した洪水の数、その際の水位の高さ及び伊勢宮排水ポンプ場の稼働状況を示していただきたい。	<p>次回の技術委員会でお示しいたします。</p> <p>【事後回答】 伊勢宮排水ポンプ場及び対象事業実施区域周辺における洪水は「千曲市地域防災計画」によると過去20年間、記録されておりません。 このポンプ場は、伊勢宮川都市下水路の改修にあたり、平成5年3月に設置されたもので、千曲川河床から水位が2mを超えた場合に千曲川への流入を止め、ポンプを稼働させます。稼働回数については、詳細なデータがないため確認できませんでした。 なお、千曲川の最高水位は、昭和34年8月に5.25mを杭瀬下観測所で記録しております。</p>
4	2.3 自然的状況	梅崎	<p>地下水の水位は4m程度と低位置に存在するが、これは変動することがあるのか。また、地下水はこの周辺の農地で使われることがあるのか。</p> <p>表面の砂礫が緩いため、地下水位が上がってきた際に液状化が起きる可能性が想定されるため、調べていただきたい。</p>	<p>方法書の水象でお示ししたとおり、対象事業実施区域内及びその周辺部において、地下水位の1年間の変動を確認するとともに、現況の地下水の利用状況を調査いたします。</p> <p>【事後回答】 長野県地震対策基礎調査（H14年3月）によると、対象事業実施区域は液状化の危険度は低いと評価されておりますが、地質について、別途行う候補地内の地質調査において詳細を確認したうえで、評価いたします。</p>
5	2.3 自然的状況	中村(雅)	方法書128ページのメダカについては、メダカ目ではなくダツ目ではないか。	<p>出典資料の記載どおりですが、ご意見を踏まえ、ご指摘の表記を併記いたします。</p>
6	2.3 自然的状況	片谷	方法書152ページに千曲市における苦情発生件数が記載されているが、対象事業実施区域周辺における苦情発生状況があれば有効な情報となるため、準備書段階でよいのでお示しいたきたい。特に「その他」でくくられているものが多いので、その中身についても教えていただきたい。	<p>次回の技術委員会でお示しいたします。</p> <p>【事後回答】 対象事業実施区域を含む屋代地区の苦情件数は、H18年度が4件、H19年度が2件、H20年度が5件、H21年度が6件、H22年度が5件で、その内容は野焼きや騒音等の苦情でございます。 また、その他の中身としては、空地の雑草やアメリカシロヒトリ(樹木害虫)等が主なものでございます。</p>

No.	区分	委員氏名	意見要旨	事業者の説明、見解等要旨
7	3.2.1 大気質	片谷	方法書208ページに「予測地域及び予測地点」とあるが、予測は面的に実施し、濃度分布図いわゆるコンター図のような形でお示しされ、なおかつ最大着地濃度地点についてはデジタルな数値で示すということによいか。	予測地域については、濃度分布図（コンター図）として結果をお示しいたします。 また、予測地点の最大着地濃度地点については、詳細な結果を数値でお示しいたします。
8	3.2.1 大気質	鈴木	現地の上空には送電線が設置されており、上層気象測定に支障をきたす可能性があるが、こういった形で測定を実施するののか。	上層気象については、現況把握のため候補地内での実施が望ましいですが、広く千曲川の河川敷等も含めて検討いたします。
9	3.2.1 大気質	鈴木	方法書205ページに環境大気の調査地点が示されているが、北東、南西側については、国道18号のそばになってしまうので、道路影響により施設の影響を適切に予測できない可能性がある。	道路の影響を大きく受けない場所を調査地点といたします。
10	3.2.5 悪臭	片谷	悪臭の予測において、悪臭発生量はどのように設定するののか。	既存資料や文献をもとに想定される発生量を設定いたします。
11	3.2.5 悪臭	片谷	当施設には、ごみ収集車両洗浄施設は設けられるの か。 悪臭対策については方法書に記載されているところであるが、設備そのものが悪臭発生源になりうるので、設置される可能性があるようなら、予測に加えていただきたい。	ごみ収集車両からの臭気については、洗車設備等の適切な利用により低減を図る計画としております。 【事後回答】 ごみ収集車両洗浄施設の詳細については、整備計画の中で検討し、必要な予測評価を行います。
12	3.2.7 水象	鈴木	地下水について、稼働により揚水する可能性があるという記載や、揚水するという記載があるが、どちらが正しいのか。方法書189ページには可能性があるという記載があり、もしかしたら揚水を行わないこともあるの か。	焼却施設の稼働においては、ごみ1 t当たり0.5～2 tほどの水が必要となることから、地下水の利用を想定しております。 ご指摘いただいた曖昧な表現については、利用を想定した文章に修正いたします。

No.	区分	委員氏名	意見要旨	事業者の説明、見解等要旨
13	3.2.7 水象	富樫	<p>選定環境要素の表に、地下水及び地盤沈下については取り上げられているが、地形・地質には記載されていない。</p> <p>地下水の揚水に伴う周辺への影響予測においては、この3項目はセットで考える必要があるため、○ないし△にするかはともかくとして、選定からは落とさないでいただきたい。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ検討して、次回の技術委員会でお示しいたします。</p> <p>【事後回答】 地形・地質については、別途行う候補地内の地質調査において詳細を確認し、影響を予測評価いたします。</p>
14	3.2.7 水象	富樫	<p>水利用及び地下水の現地調査方法については、調査範囲が記載されていないとどの程度の調査がされるのか分からないため、A焼却施設を参考にしてもう少し具体的に示していただきたい。</p> <p>また地下水利用状況について、周辺井戸の場所、深度、用途、水量等基本的なデータを調査していただきたい。</p>	<p>地下水の利用状況については、現況調査において確認をしております。なお、調査範囲については、次回の技術委員会でお示しいたします。</p> <p>【事後回答】 調査範囲については、先に実施したA焼却施設と同様に概ね半径500mといたします。</p>
15	3.2.8 土壌汚染 他	小澤	<p>方法書234ページにおいて、土壌汚染の調査に際しては対象事業実施区域及びその周辺における発生源の状況について確認するという記載があり、汚染物について他の発生源があることも確認して調査を行うということと思うが、これは調査後の予測評価に反映させていくのですか。発生源があれば、それを含めた予測が必要ではないか。</p> <p>また、方法書201ページの大気質の部分にも、調査方法のところで対象事業実施区域及びその周辺における発生源の状況について確認する旨の記載があるが、そこも同様の解釈ととらえてよいか。</p>	<p>周辺の状況がどうなっているか把握するという意味で、こういった記載をさせていただきました。</p> <p>【事後回答】 周辺における発生源の状況について確認し、現況をバックグラウンドとして、計画施設からの影響について予測評価いたします。</p>
16	3.2.11 動物	中村 (寛)	<p>方法書246ページに記載されている動植物の現地範囲において、千曲川河川敷や篠ノ井塩崎付近に神社があり、地図上には針葉樹が存在している。</p> <p>もし社叢林があるようなら、こちらの神社も調査範囲に加える必要があるのではないか。</p>	<p>確認して、状況に応じ調査範囲を広げることを検討したいと思います。</p> <p>【事後回答】 246ページの篠ノ井塩崎地区の千曲川河川敷に接する神社は、「軻良根古(カネコ)神社」でございます。現地調査により、社叢林は大きな樹林帯ではございませんが、鳥類の飛来が考えられますので、社叢林を調査範囲に含めてまいります。</p>

No.	区分	委員氏名	意見要旨	事業者の説明、見解等要旨
17	3.2.11 動物	中村 (寛)	動物の現地調査において、ベイトトラップは1か所で実施するのか。また水生生物の調査は何か所を予定するのか教えていただきたい。	共に複数個所になるかと思いますが、詳細については今後検討いたします。
18	3.2.11 動物	中村 (雅)	鳥類についてはラインセンサス法、ポイントセンサス法及び任意観察により調査を行うこととされているが、任意観察とはどういったものを示すのか教えていただきたい。 また、昆虫類の任意採集及び両性類・爬虫類の任意確認調査とはどう違うのか。	任意観察とは、ラインセンサス・ポイントセンサス法以外の踏査をした際の確認を対象といたします。 その他については確認をして、次回の技術委員会でお示しいたします。 【事後回答】 調査を大別すると、観察を行う「任意観察」と、採集して確認を行う「任意採集」がございます。 方法書に記載の「任意確認」と「任意確認調査」については、標記を「任意観察」に統一いたします。
19	3.2.14 触れ合い 活動の場	陸	方法書253ページ 触れ合い活動の場の現地調査の調査頻度については年2回とされているが、1回の調査における内容及び期間について、現在の考えがあればお教えいただきたい。	触れ合い活動の場の調査については、河川敷及びサイクリングロード等の利用者が多い、春と秋の行楽シーズンにそれぞれ1回（1日）、実施する予定でございます。 調査内容としては、現地踏査、利用状況調査及び聞き取り調査等を実施いたします。
20	3.2.14 触れ合い 活動の場	陸	日程を選ぶタイミングとして、年間の利用者数が分かるような調査方法や、季節変動を考慮した日程選定、例えば快晴の日や休祝日といった日を選定していただきたい。	いただいたご意見を参考に、調査日を選定いたします。 【事後回答】 調査対象区域でのイベントや行事等の情報も収集し、結果に反映させてまいります。